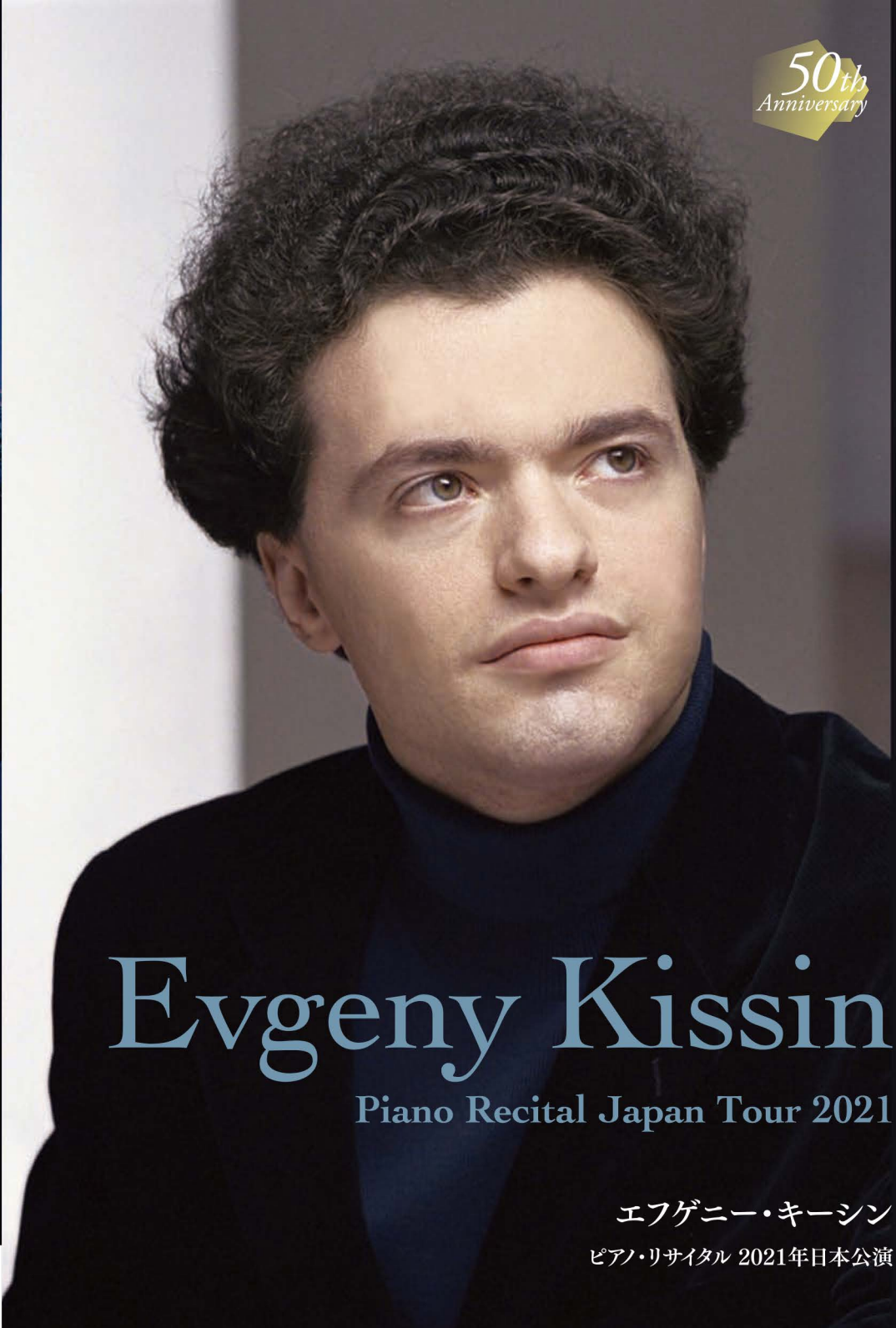

50th Anniversary

Evgeny Kissin

Piano Recital Japan Tour 2021

エフゲニー・キーシン

ピアノ・リサイタル 2021年日本公演

エフゲニー・キーシン ピアノ・リサイタル 50th Anniversary

2021年日本公演スケジュール

Evgeny Kissin Piano Recital Japan Tour 2021 Schedule

"I would like to dedicate my concerts in Japan to the memory of Anna Pavlovna Kantor." Evgeny Kissin

「この日本公演をアンナ・パヴロヴナ・カントールに捧げます。」 エフゲニー・キーシン

アンナ・パヴロヴナ・カントール（エフゲニー・キーシンの唯一のピアノ教師） 2021年7月27日永眠

10.28［木］19:00 川　崎　ミューザ川崎シンフォニーホール
October 28 Thu. 19:00 Kawasaki Muza Kawasaki Symphony Hall
主催：神奈川芸術協会／協力：ミューザ川崎シンフォニーホール

11.2［火］19:00 所　沢　所沢ミューズ アークホール
November 2 Tue. 19:00 Tokorozawa Tokorozawa Civic Cultural Centre MUSE
主催：公益財団法人所沢市文化振興事業団

11.6［土］15:00 大　阪　ザ・シンフォニーホール
November 6 Sat. 15:00 Osaka The Symphony Hall
主催：ABCテレビ／協力：ザ・シンフォニーホール

11.10［水］19:00 東　京　東京オペラシティ コンサートホール
November 10 Wed. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall
主催：ジャパン・アーツ

11.14［日］14:30 名古屋　愛知県芸術劇場コンサートホール
November 14 Sun. 14:30 Nagoya Aichi Prefectural Art Theater, Concert Hall
主催：CBCテレビ

11.17［水］19:00 東　京　サントリーホール
November 17 Wed. 19:00 Tokyo Suntory Hall
主催：ジャパン・アーツ

協力：ユニバーサル ミュージック

エフゲニー・キーシンの50周年を記念し、キーシンが作曲した作品の演奏会を、本人の立ち会いのもとで行います。
11月18日（木）19時開演 サントリーホール ブルーローズ
「作曲家キーシン～その肖像 Kissin the Composer」
※キーシン本人の演奏はございません。詳細はジャパン・アーツWebサイトをご覧下さい。

Program

J.S.バッハ（タウジヒ編）：トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
J. S. Bach/Tausig: Toccata and Fugue in D minor, BWV565

モーツァルト：アダージョ ロ短調 K.540
W. A. Mozart: Adagio in B minor, K.540

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 Op.110
L. v. Beethoven: Piano Sonata No.31 in A-flat major, Op.110

第1楽章：モデラート・カンタービレ・モルト・エスプレッシーヴォ	1st Mov.: Moderato cantabile molto espressivo
第2楽章：アレグロ・モルト	2nd Mov.: Allegro molto
第3楽章：アダージョ・マ・ノン・トロッポ	3rd Mov.: Adagio ma non troppo
― フーガ、アレグロ・マ ノン・トロッポ	― Fuga. Allegro ma non troppo

ショパン：マズルカ第 5 番 Op.7-1　第14番 Op.24-1　第15番 Op.24-2
第18番 Op.30-1　第19番 Op.30-2　第24番 Op.33-3
第25番 Op.33-4
F. Chopin: Mazurkas Op.7-1, Op.24-1, Op.24-2, Op.30-1, Op.30-2, Op.33-3, Op.33-4

ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22
F. Chopin: Andante spianato and Grande Polonaise Brillante, Op.22

エフゲニー・キーシン（ピアノ）
Evgeny Kissin, Piano

エフゲニー・キーシンは、その音楽性、深く掘り下げた詩的な解釈、卓越した演奏技術により、同世代の中で、そしておそらく過去の世代おいても、最も才能あるクラシック・ピアニストの一人として、その資質にふさわしい尊敬と称賛を得てきた。彼は世界中で人気を博し、これまでにアバド、アシュケナージ、バレンボイム、ドホナーニ、ジュリーニ、レヴァイン、マゼール、ムーティ、小澤征爾など多くの世界的名指揮者や世界の一流オーケストラと共演している。

1971年10月モスクワ生まれ。2歳の頃、耳で聴いた音楽を演奏したり、ピアノで即興的なフレーズを弾いたりし始めた。6歳で、才能ある子供たちのための特別な学校であるモスクワのグネーシン音楽学校に入り、現在に至るまで彼の唯一の教師となったアンナ・パヴロヴナ・カントールに師事。10歳でモーツァルトのピアノ協奏曲（K.466）を弾いて協奏曲デビューを果たし、その1年後には初めてのソロ・リサイタルをモスクワで行った。1984年3月、12歳のときに、ドミトリー・キタエンコ指揮／モスクワ・フィルとともに、モスクワ音楽院大ホールでショパンのピアノ協奏曲第1番と第2番を演奏し、世界的に注目されるようになった。同公演はメロディアによりライヴ収録され、翌年2枚組LPのアルバムがリリースされた。この録音の大成功に続き、メロディアはその後2年間のうちに、モスクワで行われたライヴ公演のLPをさらに5枚リリースすることとなった。

彼がロシア国外に初めて登場したのは1985年の東ヨーロッパであり、翌年には初めての日本ツアーを行った。1988年12月、ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮／ベルリン・フィルとジルベスター・コンサートで共演し、全世界で放送された。1990年、ロンドンのＢＢＣプロムナード・コンサートに初めて出演。同年、北アメリカにもデビューし、ズービン・メータ指揮／ニューヨーク・フィルとショパンの協奏曲第1番、第2番を演奏した。翌週には、カーネギー・ホールの百周年シーズンの開幕を飾る見事なデビュー・リサイタルを行い、BMGクラシックスによってライヴ収録された。

2020／21年シーズンは、リサイタルのほか、グスターボ・ドゥダメル指揮／ウィーン・フィルと共演し、リストのピアノ協奏曲第1番をザルツブルク音楽祭にて演奏。

世界中から音楽賞や記念賞が次々と与えられており、1986年の最高の演奏として（これが日本での最初の演奏だった）大阪、ザ・シンフォニーホールのクリスタル賞が与えられた。1991年にはイタリアのシエナのキジアーナ音楽アカデミーから年間最優秀音楽賞を受賞。また、1992年のグラミー賞授章式に特別ゲストとして招かれ、推定10億人以上のテレビの聴衆を前にライヴ演奏を行い、1995年には「ミュージカル・アメリカ」の器楽賞を最年少で受賞した。1997年、ロシア文化への彼の傑出した貢献に対して、名誉ある凱旋賞（Triumph Award）が与えられた。これは、ロシア共和国で与えられる最高の文化的栄誉のひとつであり、ここでもキーシンは史上最年少の受賞者となった。このほか、マンハッタン音楽大学から名誉音楽博士号、ロシアの音楽界における最高の栄誉の一つであるショスタコーヴィチ賞、ロンドンの英国王立音楽院の名誉会員資格、そして直近では香港大学より名誉博士号を授与された。

一番最近のリリースは、ドイツ・グラモフォンからのベートーヴェンのソナタ・アルバムである。これ以前の録音においても、世界の大演奏家達による名曲コレクションに多大に寄与しており、無数の賞を与えられている。その中には、オランダの「エディソン・クラシック」、フランスの「金の音叉賞」とヌーヴェル・アカデミー・ドゥ・ディスク（La Nouvelle Academie du Disque）の「グランプリ」などがある。2006年には、スクリャービン、メトネル、ストラヴィンスキーの作品を収録した録音（RCAレッド・シール）により、グラミー賞（最優秀器楽ソリスト部門）を、2002年には、エコー・クラシック賞（最優秀ソリスト）を受賞した。さらに2010年には、ウラディーミル・アシュケナージ指揮／フィルハーモニア管弦楽団と共演したプロコフィエフのピアノ協奏曲第2番、第3番の録音（EMIクラシックス）により、グラミー賞（最優秀オーケストラ共演器楽ソリスト部門）を受賞した。

キーシンの卓越した才能に感銘を受けたクリストファー・ニューペンは、ドキュメンタリー映画「エフゲニー・キーシン：音楽の贈り物」を制作。同作品は、2000年にビデオとDVDとしてRCAレッド・シールからリリースされた。

Evgeny Kissin, Piano

Evgeny Kissin's musicality, the depth and poetic quality of his interpretations, and his extraordinary virtuosity have earned him the veneration and admiration deserved only by one of the most gifted classical pianists of his generation and, arguably, generations past. He is in demand the world over, and has appeared with many of the world's great conductors, including Abbado, Ashkenazy, Barenboim, Dohnanyi, Giulini, Levine, Maazel, Muti, and Ozawa, as well as all the great orchestras of the world.

Mr. Kissin was born in Moscow in October 1971 and began to play by ear and improvise on the piano at the age of two. At six years old, he entered a special school for gifted children, the Moscow Gnessin School of Music, where he was a student of Anna Pavlovna Kantor, who has been his only teacher. At the age of ten, he made his concerto debut playing Mozart's *Piano Concerto K. 466* and gave his first solo recital in Moscow one year later. He came to international attention in March 1984 when, at the age of twelve, he performed Chopin's *Piano Concertos 1 and 2* in the Great Hall of the Moscow Conservatory with the Moscow State Philharmonic under Dmitri Kitaenko. This concert was recorded live by Melodia, and a two-LP album was released the following year. Given the astounding success of this recording, Melodia proceeded to release five more LPs of live performances in Moscow over the following two years.

Mr. Kissin's first appearances outside Russia were in 1985 in Eastern Europe; his first tour of Japan in 1986; and in December 1988 he performed with Herbert von Karajan and the Berlin Philharmonic in a New Year's Eve concert broadcast internationally. In 1990 Mr. Kissin made his first appearance at the BBC Promenade Concerts in London and, in the same year, made his North American debut, performing both Chopin piano concertos with the New York Philharmonic, conducted by Zubin Mehta. The following week he opened Carnegie Hall's Centennial season with a spectacular debut recital, recorded live by BMG Classics.

During the 2020-2021 season, in addition to performing solo recitals, Mr. Kissin joins the Vienna Philharmonic and conductor Gustavo Dudamel at the Salzburg Festival to perform Liszt's Piano Concerto No. 1.

Musical awards and tributes from around the world have been showered upon Evgeny Kissin. He received the Crystal Prize of the Osaka Symphony Hall for the Best Performance of the Year in 1986 (his first performance in Japan). In 1991 he received the Musician of the Year Prize from the Chigiana Academy of Music in Siena, Italy. He was special guest at the 1992 Grammy Awards Ceremony, broadcast live to an audience estimated at over one billion, and three years later became *Musical America's* youngest Instrumentalist of the Year. In 1997 he received the prestigious Triumph Award for his outstanding contribution to Russia's culture, one of the highest cultural honors to be awarded in the Russian Republic, the youngest ever awardee. Mr. Kissin has been awarded an Honorary Doctorate of Music by the Manhattan School of Music; the Shostakovich Award, one of Russia's highest musical honors; an Honorary Membership of the Royal Academy of Music in London; and most recently an Honorary Doctorate of Letters from the Hong Kong University.

Mr. Kissin's newest release is an album featuring Beethoven Sonatas on the Deutsche Grammophon label. His previous recordings have received numerous awards and accolades, having contributed significantly to the library of masterpieces recorded by the world's greatest performers. Past awards have included the Edison Klassiek in The Netherlands, and the Diapason d'Or and the Grand Prix of La Nouvelle Academie du Disque in France. His recording of works by Scriabin, Medtner and Stravinsky (RCA Red Seal) won him a Grammy in 2006 for Best Instrumental Soloist. In 2002, Mr. Kissin was named Echo Klassik Soloist of the Year. His most recent Grammy for Best Instrumental Soloist Performance (with orchestra) was awarded in 2010 for his recording of Prokofiev's *Piano Concertos Nos. 2 and 3* with the Philharmonia Orchestra, conducted by Vladimir Ashkenazy (EMI Classics).

Mr. Kissin's extraordinary talent inspired Christopher Nupen's documentary film, *Evgeny Kissin: The Gift of Music,* which was released in 2000 on video and DVD by RCA Red Seal.

©F.Broede_EMI

Program Notes

曲目解説

原 明美（音楽評論家）Akemi Hara

J.S.バッハ（タウジヒ編）：トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

バロック音楽の頂点に立つドイツの大作曲家、ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685－1750）の作品は、時代や国の違いを越えて、数多くの音楽家たちに大きな影響を与え続けてきた。「トッカータとフーガ」BWV565は、古今のオルガン曲の名作のひとつである。作曲されたのは、おそらく1700年代の後半、彼がドイツ各地でオルガニストを務めていた若い頃とされている。曲は、即興的かつダイナミックに展開するトッカータと、落ち着いた雰囲気を持つフーガから成り、フーガの後に再びトッカータが現れる。

このオルガン曲のピアノ編曲版は、F.ブゾーニによるものも有名だが、今回は、カール・タウジヒ（1841－71）の編曲版で演奏される。リストの高弟の一人であるタウジヒは、若くして世を去ったが、ピアニストとして活躍したほか、編曲や楽譜の編纂も行った。「トッカータとフーガ」の編曲については、ブゾーニ版が、オルガンの響きを想像させる演奏効果を工夫し、荘厳な雰囲気を印象づけるのに対し、タウジヒの編曲では、装飾音の華やかさや、音域を広く使う場面が目立つなど、よりピアニスティックな工夫が注目される。

モーツァルト：アダージョ ロ短調 K.540

音楽史上でも傑出した天才だったヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756－91）は、ソナタや変奏曲のほかに、ロンド、メヌエット、幻想曲などの小品も、ピアノのために残した。1788年3月にウィーンで書きあげられた「アダージョ」K.540は、ロ短調、ソナタ形式で書かれている。厳粛な雰囲気を保ちながらも哀感を帯びた、味わい深い小品である。

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 Op.110

ドイツのボンに生まれ、ウィーンで世を去ったルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770－1827）のピアノ曲のなかで、作品番号のついたソナタについては32曲が残されている。この32曲において彼は、多彩な技法を盛りこむと共に、各楽章の形式を充実させ、あるいは拡大させて、その構成と内容に新しい境地を切り開いていった。

ベートーヴェンは、後期ピアノ・ソナタにおいて、形式にとらわれない即興的かつ幻想的な作風を示した。1821年に完成され、誰にも献呈されなかった第31番は、情緒的な美しさがきわ立つ一方、深い悲しみも訴えるソナタであり、さらに、その悲しみを突き破る力強さをもって締めくくられる。構成面では、第3楽章の独創性が特に注目されよう。

第1楽章：モデラート・カンタービレ・モルト・エスプレッシーヴォ。変イ長調、ソナタ形式。清澄な響きに包まれている。

第2楽章：アレグロ・モルト。ヘ短調、3部形式。リズミカルな動きのなかに不気味な雰囲気も漂う、スケルツォ風の楽章である。

第3楽章：アダージョ・マ・ノン・トロッポ、変ロ短調～変イ短調 → フーガ：アレグロ・マ・ノン・トロッポ、変イ長調。テンポ表示が頻繁に変わる序奏の後、「嘆きの歌」と呼ばれる部分に入り、悲しみが切々と訴えられる。続く「フーガ」が、自由に展開しながらクライマックスを迎えると、再び「嘆きの歌」が、途切れがちに歌われる。その後、もう一度「フーガ」となり、さらに壮大な展開を見せてゆく。

ショパン：マズルカより（7曲）

ポーランド出身のフレデリック・ショパン（1810－49）は、生涯の後半を主にフランスで過ごし、祖国ポーランドに帰ることなく世を去ったが、革命のさなかにあった故国のことを想い続けていた。マズルカやポロネーズなど、ポーランドの舞曲に基づく作品には、彼の郷愁が秘められていると言えよう。

ショパンは、ポーランドの民俗的な舞曲のスタイルに基づいて、少年時代から晩年までの間に60曲近いマズルカを残した。これは彼の作品中、数のうえで最も多いだけでなく、その個性や独創性を特に多く含んでいる。マズルカとは元来、ポーランドのマゾフィア地方に古くから伝わるマズールという踊りに端を発する3拍子の舞踏だが、ショパンのマズルカには、祖国の舞曲を普遍的な芸術作品にまで高めた様式化の跡がうかがえる。

今回は、以下の7曲が演奏される。作曲年代は、第5番が1830～31年、第14番・第15番が1834～35年、第18番・第19番が1836～37年、第24番・第25番が1837～38年となっている。

第5番（変ロ長調、Op.7－1）：ショパンのマズルカとしては最も有名な1曲であり、舞踏的な性格がきわめて濃い。そして、明るく晴れやかな気分に満ちている。

第14番（ト短調、Op.24－1）：洗練された味わいを持つが、増2度の進行が独特の彩りを添えている。

第15番（ハ長調、Op.24－2）：中間部で意表をついて変ニ長調となる点が興味深い。

第18番（ハ短調、Op.30－1）：簡潔な書法ながら、充実感を印象づける1曲。

第19番（ロ短調、Op.30－2）：転調を重ねるなかで、民族色豊かな響きが広がる。

第24番（ハ長調、Op.33－3）：短いながら、転調の美しさが印象に残るマズルカ。

第25番（ロ短調、Op.33－4）：特に有名なマズルカのひとつであり、長大ななかに哀愁の情が光る。

ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22

デスト男爵夫人に献呈されたこの曲は元来、ピアノとオーケストラのための作品だった。ポロネーズの部分が1830年から翌年、序奏に当たるアンダンテ・スピアナートの部分が1834年に、それぞれ完成されている。今日では、オーケストラ・パートを省いて、ピアノ独奏曲として演奏される機会の方が圧倒的に多いが、ピアノのパートだけでも充分に華やかな演奏効果を持つ。

曲は、ト長調の「アンダンテ・スピアナート」に始まる。「スピアナート」とは、「滑らかな」といった意味のイタリア語である。続く変ホ長調の「華麗なる大ポロネーズ」は、長いコーダを伴う3部形式で書かれており、ポロネーズ独特の勇壮なリズムを活かしながら、華やかな曲想が展開する。

2021年7月27日、エフゲニー・キーシンを育て見守り続けた名教師アンナ・パヴロヴナ・カントール女史が逝去されました。今回の日本公演は唯一無二の存在であったカントール先生に捧げられています。

My old teacher Anna Pavlovna Kantor just left this world on July 27... she was 98 years old...
Soon after I began my studies with her, Anna Pavlovna became for me much more than just a teacher: during all these years she has been a real friend, like a family member. She became very close to our whole family, and 30 years ago she moved to live with us.
She was my only piano teacher, and everything I am able to do on the piano I owe to her. She was a truly remarkable woman, a person of rare integrity and purity.
Blessed be her memory always...

Evgeny Kissin

私の恩師、アンナ・パヴロヴナ・カントールが7月27日にこの世を去りました。98歳でした。

一緒に勉強を始めてすぐに、アンナ・パヴロヴナは私にとって教師以上の存在になりました。彼女は私の真の友人となり、家族の一員のようになりました。彼女は私たち家族と極めて親しい間柄になり、30年前に私たちは一緒に生活をするようになったのです。彼女は私の唯一のピアノの師であり、私がピアノでできることはすべて彼女からの恩恵なのです。

彼女は本当に素晴らしい女性であり、類いまれな高潔さと純粋さを持った人でした。

彼女の思い出にいつまでも祝福がありますように。

エフゲニー・キーシン

エフゲニー・キーシン 50th Anniversary

1986年、キーシンは15歳で衝撃の日本デビューを果たし、来日35周年を迎えた現在も、世界が賞賛し、時代を担うピアニストとして歩み続けています。

左より キーシン、カントール先生、母

1984年キタエンコ指揮/モスクワ・フィルとの公演前リハーサルで

1986年来日直前
スピヴァコフとリハーサル中のキーシン

1986年10月15日
昭和女子大学人見記念講堂でのリサイタル

1987年の来日公演 ゲルギエフとの共演

1987年来日中 レーピン(右)と

■1971年10月　モスクワ生まれ。

11ヶ月で姉が練習していたバッハの「平均律クラヴィーア曲集」第2巻のフーガを聞き覚えて歌いだす。毎朝目覚めるとピアノに駆け寄っては、「あて、あて、ふた、あて！」(蓋開けて！)と声をあげた。2歳の頃には、耳で聴いた音楽を演奏したり、ピアノで即興的なフレーズを弾いたりし始めた。

■1977年　6歳

モスクワのグネーシン音楽学校に入り、唯一の教師であり続けたアンナ・パヴロヴナ・カントールに師事。

1989年 日本公演チラシ

■10歳

モーツァルトのピアノ協奏曲(K.466)を弾いて協奏曲デビュー。

■1983年3月　11歳

初めてのソロ・リサイタル(モスクワ)。同年、海外向けのラジオ放送番組でキーシンの演奏が紹介されると世界中から反響が寄せられた。

■1984年3月　12歳

ドミトリー・キタエンコ指揮／モスクワ・フィルと共演。モスクワ音楽院大ホールでショパンのピアノ協奏曲第1番と第2番を演奏し、世界的に注目されるようになった。この公演はメロディアによりライヴ収録され、翌年2枚組LPのアルバムがリリースされた。またこの頃、ワディム・レーピンとともに「ソ連の2大神童」と目されるようになった。

■1985年10月　14歳

初の国外演奏会(東ヨーロッパ)。

1986年初来日

■1986年10月　15歳

初の日本ツアー(リサイタル、ウラディーミル・スピヴァコフ指揮／モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団との共演)。

■1987年4-5月　15歳

2回目の日本ツアー(リサイタル、ワレリー・ゲルギエフ指揮／日本フィル、大阪フィルと共演。ワディム・レーピンも来日)。

指揮者ゲルギエフと

■1988年7月　16歳

3回目の日本ツアー(リサイタル、ワレリー・ゲルギエフ指揮／日本フィル、京都市響、名古屋フィルと共演)。

■1988年12月　17歳

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮／ベルリン・フィルとジルベスター・コンサートで共演し、全世界で放送された。

■1989年11月　18歳

4回目の日本ツアー　＜ロシア・ソビエト芸術祭＞(ウラディーミル・スピヴァコフ指揮／モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管、東京交響楽団と共演)。

■1990年　19歳

ロンドンのBBCプロムスに初めて出演。同年、北アメリカでデビューし、ズービン・メータ指揮／ニューヨーク・フィルとショパンの協奏曲第1番、第2番を演奏。翌週には、カーネギー・ホールの百周年シーズンの開幕を飾る見事なデビュー・リサイタルを行った。

■1991年1-2月、4月　19歳

日本ツアー(リサイタル、＜ゴルバチョフ大統領来日記念・ソ連芸術祭＞リサイタル、ガラ・コンサート)。

以後、2018年までに多数来日(詳細は次ページを参照)。

参考：「エフゲニー・キーシン自伝」(森村里美訳／ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部)

エフゲニー・キーシン 日本公演記録

～来日35周年を迎えて

©Sasha Gusov

1986年

＜初来日／ロシア・ソビエト芸術祭：リサイタル＞
10月15日(水)　東京／昭和女子大学人見記念講堂
10月25日(土)　横浜／神奈川県民ホール
＜モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団との共演＞
10月12日(日)　大阪／ザ・シンフォニーホール
10月17日(金)　東京／新宿文化センター
10月18日(土)　松本／ザ・ハーモニーホール

1987年

＜リサイタル＞
5月3日(日)　大阪／ザ・シンフォニーホール
5月9日(土)　横浜／神奈川県民ホール
5月12日(火)　東京／サントリーホール
＜チーホフ・フレンニコフ、ワディム・レーピン、ワレリー・ゲルギエフとの共演＞
4月27日(月)　東京／サントリーホール
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／日本フィルハーモニー交響楽団]
4月30日(木)　大阪／ザ・シンフォニーホール
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／大阪フィルハーモニー交響楽団]
5月6日(水)　東京／サントリーホール
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／日本フィルハーモニー交響楽団]

1988年

＜リサイタル＞
7月2日(土)　東京／サントリーホール
7月4日(月)　東京／サントリーホール
7月14日(木)　札幌／北海道厚生年金会館
7月17日(日)　大阪／ザ・シンフォニーホール
＜オーケストラとの共演＞
7月7日(木)　東京／サントリーホール
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／日本フィルハーモニー交響楽団]
7月10日(日)　京都／京都会館
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／京都市交響楽団]
7月21日(木)　名古屋／名古屋市民会館
[ワレリー・ゲルギエフ指揮／名古屋フィルハーモニー交響楽団]

1989年

＜ロソア・ソビエト芸術祭＞
11月24日(金)　東京／サントリーホール
[ウラディーミル・スピヴァコフ指揮／モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団]
(アルメニア救済チャリティー・コンサート)
11月30日(木)　大宮／大宮ソニックシティ
[ウラディーミル・スピヴァコフ指揮／東京交響楽団]

1991年

＜リサイタル＞
1月29日(火)　大阪／ザ・シンフォニーホール
2月1日(金)・6日(水)　東京／東京芸術劇場
[カーネギーホール・デビュープログラム]
2月9日(土)・12日(火)　東京／東京芸術劇場
＜ゴルバチョフ大統領来日記念・ソ連芸術祭：リサイタル＞
4月16日(火)　東京／東京文化会館
＜ゴルバチョフ大統領来日記念・ソ連芸術祭：ガラ・コンサート＞
4月18日(木)　東京／東京芸術劇場
[円光寺雅彦指揮／東京フィルハーモニー交響楽団]

1994年

＜リサイタル＞
10月28日(金)　松本／長野県松本文化会館
11月1日(火)　東京／サントリーホール
11月4日(金)　東京／オーチャードホール
11月9日(水)　相模原／グリーンホール相模大野
11月12日(土)　熊本／熊本県立劇場コンサートホール
11月15日(火)　大阪／ザ・シンフォニーホール
11月18日(金)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール

1996年

＜リサイタル＞
10月13日(日)　横浜／神奈川県民ホール
10月18日(金)　福岡／福岡シンフォニーホール
10月21日(月)　岡山／岡山シンフォニーホール
10月25日(金)　大阪／ザ・シンフォニーホール
10月30日(水)　東京／東京芸術劇場
11月5日(火)　東京／サントリーホール
11月9日(土)　高崎／高崎市文化会館
11月12日(火)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール

1998年

＜リサイタル＞
10月27日(火)　新潟／新潟市民芸術文化会館
10月31日(土)　東京／サントリーホール
11月4日(水)　東京／サントリーホール
11月7日(土)　大阪／ザ・シンフォニーホール
11月11日(水)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール
11月14日(土)　横浜／横浜みなとみらいホール

2001年

＜リサイタル＞
4月5日(木)　札幌／札幌コンサートホール"Kitara"
4月8日(日)　豊田／豊田市コンサートホール
4月13日(金)　岡山／岡山シンフォニーホール
4月17日(火)　東京／サントリーホール
4月20日(金)　京都／京都コンサートホール
4月23日(月)　東京／サントリーホール
4月26日(木)　盛岡／岩手県民会館
4月29日(日)　横浜／横浜みなとみらいホール

2003年

＜ロシア芸術祭：リサイタル＞
11月10日(月)　東京／サントリーホール
11月13日(木)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール
11月18日(火)　大阪／ザ・シンフォニーホール
11月21日(金)　鹿児島／鹿児島県文化センター
11月25日(火)　川口／川口総合文化センター・リリアメインホール
11月28日(金)　富山／富山市芸術文化ホール オーバード・ホール
12月1日(月)　東京／サントリーホール
12月6日(土)　横浜／横浜みなとみらいホール
＜横浜みなとみらいホール5周年記念公演＞

2006年

くリサイタル＞
4月12日(水)　川崎／ミューザ川崎シンフォニーホール
4月15日(土)　大阪／ザ・シンフォニーホール
4月18日(火)　東京／サントリーホール
4月22日(土)　新潟／りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
4月26日(水)　東京／サントリーホール
4月29日(土)　横浜／横浜みなとみらいホール

2009年

＜リサイタル＞
4月8日(水)　大阪／ザ・シンフォニーホール
4月11日(土)　横浜／横浜みなとみらいホール
4月15日(水)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール
4月19日(日)　東京／サントリーホール
4月23日(木)　東京／サントリーホール
4月26日(日)　東京／サントリーホール

2011年

＜キーシン・フェスティバル 2011＞
＜室内楽プログラム＞
10月6日(木)　西宮／兵庫県立芸術文化センター
10月10日(月)　東京／サントリーホール
＊アレクサンドル・クニャーゼフ(チェロ)との共演
＜リサイタル・プログラム＞
10月19日(水)　大阪／ザ・シンフォニーホール
10月23日(日)　東京／サントリーホール
10月27日(木)　名古屋／愛知県芸術劇場コンサートホール
11月1日(火)　横浜／横浜みなとみらいホール
＜協奏曲プログラム＞
11月13日(日)　東京／サントリーホール
[ウラディーミル・アシュケナージ指揮／シドニー交響楽団]

2014年

＜リサイタル＞
4月13日(日)　大阪／ザ・シンフォニーホール
4月17日(木)　横浜／横浜みなとみらいホール
4月22日(火)　武蔵野／武蔵野市民文化会館 大ホール
4月26日(土)　福岡／福岡シンフォニーホール
5月1日(木)　東京／サントリーホール
5月4日(日)　東京／サントリーホール

2018年

＜リサイタル＞
11月2日(金)　横浜／横浜みなとみらいホール
11月6日(火)　東京／サントリーホール
11月10日(土)　大阪／ザ・シンフォニーホール
11月14日(水)　東京／東京芸術劇場
＜オーケストラとの共演＞
11月26日(月)　東京／サントリーホール
11月27日(火)　東京／サントリーホール
[ズービン・メータ指揮／バイエルン放送交響楽団]

幼少時代の写真、演奏曲目の入った日本公演記録詳細はジャパン・アーツWebサイト〈エフゲニー・キーシン特設サイト〉でご覧いただけます。

エフゲニー・キーシン 2021年日本公演プログラム　企画編集：ジャパン・アーツ 編集協力：柴田克彦(編集工房Beethoven) デザイン・印刷：デザイン・グリッド